

あゆみ

『クリスマスに思う』

理事長 森 公夫

昔は十二月に入ってからだったクリスマス飾りが、今頃は十月後半くらいから町にあふれるようになり、たくましい商魂があちこちでこのぎを削っています。



私が若い頃に見た映画に、ディケンズの小説「クリスマス・キャロル」をミュージカルにしたものがありました。とても心に残る映画で今でもいくつかの場面を色鮮やかに思い出すことが出来ます。あらすじを書くと、クリスマスを祝う人々を横目に見ながら「無駄で意味のないことだ」と嘲笑していた金貸しで強欲なスクルージという老人が、夢枕に亡くなった同業の友人マーレーの亡霊と出会います。

そして強欲だったために死後に苦しんでいることや、自分の過去や未来の出来事をまるで映画のように目の前に見せられ、心を入れかえ、世のため人のために生きる人に生まれ変わるという物語です。

クリスマスという行事が宣教師とともに日本に入ったのは五百年近く前だそうですが、その後のキリスト教禁止令などによりその慣習が一般に広がることはなく、明治の後半になってデパートや商店が取り入れたことから広く庶民の中に広がっていきました。

世界には宗教の違いが紛争のもとになっている国がたくさんあります。その中で、仏教・神道・キリスト教をはじめ、いくつもの宗教が共存しながらさほどの事件も起こらない社会を形成していることは、何れも日本とこの国の素晴らしさだと思います。ほとんどすべての宗教は、絶対的な象

徴を通して、人としてのあり方や隣人への思いやり、家族への愛などを語ります。それこそが、人間と宗教とが生み出す魂の融合といえるのではないのでしょうか。宗教心のある人もそうでない人も、なにかクリスマスには誰かに喜んでもらおうという気持ちになります。自分に今があって生かされているということへの感謝が、それをほかの人にも伝えたいという思いになるのでしょう。

劇団四季のミュージカル「人間になりたがった猫」の中に「素敵な友達」という歌があります。その歌詞に「人はみんな誰でも 一人では生きていけないから いつもすてきな友達と この手をつなぐのさ」という部分があります。全文は書けませんが、どうかどこかでそのメロディと歌詞とをじっくりと味わってみてください。

クリスマスは、私たちが大きな力によって導かれ、たくさんの人々と共に生かされていることをあらためて知る日でもあります。あなたの隣にいる人にかける優しい言葉が、その人の心を通して次の人に伝わり、まるで「ED」で連なり彩られた巨大なクリスマスツリーのようにひかり輝いて、すべての人々の行く手を明るく照らしてくれるものとなりますように。

社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『 飼い葉桶を囲んで 』

松山教会

牧師

上島 一高

今年のクリスマスに、わたしは、我が家の四男坊のことを想っています。彼は、遠く山形の山間地にある基督（キリスト）教独立学園という小さな高校で過ごしています。

この学校は一年生二十六名・全寮制を活かして、クリスマスには学年ごとの演劇を上演しています。これが、仲間にとつての大切な磨き合い・発見し合いの時となっているのです。

新潟在住時には、同じ学校に学ぶ彼の兄たちの演劇を見に行き、我が子を含めた同級生たちの成



長を感じたものです。今年は、この学校に係る最後のクリスマス。それに行けないのは残念です。もう一つは、彼が、幼い頃、高所から転落し、生死をさまよい、その後、言葉の学級にも通いながら、同級生の一番後ろを、それでも全く離れることはなく、あゆんできた子だったからです。ただ、この子は、周りの人々から人一倍、愛をもらってきた子でした。幼稚園や学校の先生、教会の人たち、近所のおじさんやおばさんたちから、そして、仲間からも。

一方、親は人々に我が子のことを共有してもらう中で、様々な課題を抱え込まずに、子育てする

ことができま
した。そればかりか、親の見ていない彼の素敵な所に気づかせてもらっていたのです。

もちろん、親ならではの責任は、まだ
まだあります。



そして、彼の人生の節目節目に、それを真剣に果たしていくことが、わたしたちにとつての、喜ばしい務めとなるようにしたいと思います。

そう言えば、クリスマスの場面を集約したようなクリスマス飾りがあります。最近、日本でも見かけるようになったクリップ（文字通りには幼子イエスの寝かされた「飼い葉桶」）です。

クリップには、幼子を囲んで、両親、訪ねて来た羊飼いたちと東の国の博士たち、そして、動物たちの小さな人形が配置されます。これが、あゆみ学園の原風景でもあるのではないのでしょうか。

『日々変わる子どもたち』

あゆみ学園

管理者

武智 一郎

桜の花が咲いていたのは、ついこの間のこのように思っていたのですが、もう海の方から冷たい風が吹き付ける季節になってしまいました。

入園当初、バスに乗って通ってへる子どもたちを見てみると、それぞれが自分流の行動様式というか癖を持っていることがよくあります。それを覚えて「この子はこんなふうに振る舞う」と思っていると、ある日その様式が一変していて驚かされます。ある日を境に一番に降りないと機嫌が悪くなっていたり、自分でリュックの留め金を止めてからでないという降りがなかったり、急にこちらに体重を預けてぴょんと飛び降りるようになったり…こんな変化が劇的に起こります。



これらは実は発達の節目になっていない、私には考えられません。こんなささいな事だけではなく、言うことを聞かない、泣く、叫ぶ、走り回るなどの行動も、新しい発達の兆

しが出てきて自分の主張が芽生え、それまで折り合っていた周囲とのミスマッチが気になって起きてくるのだと思います。だからこんな時こそ一皮むけて伸びるチャンス、じつくり腰を据えて子どもと付き合うことが肝心だと思うのです。

こんなことを私は実習生などに必ず話して聞かせます。だから発達の芽を見逃すことなく、子どもを正面から見つめて取り組みなさいと。…もっとも肝心の私は時々子どもの変化にあたふたすることもありますが。

『振り返って』

多機能型事業所あゆみ

管理者

真鍋 孝夫

あゆみ学園の設立は、就学猶予・免除の適用が多かった頃に学校に行けず「皆と同じように遊んだり勉強がしたい」親子さんの願いをかなえる施設として開設されたとお聞きしています。

早いもので、亀井前施設長より本施設を引き継ぎ七年が過ぎようとしております。

平成十八年に成人の通所授産施設として開設二十四年にはサービス指定基準が示されて、施設を増設し「多機能型事業所あゆみ」としてその一歩を踏み出しました。その間にも様々な環境の変化がありました。

制度面では、措置制度、支援費制度から障害者自立支援法へ、そして現在は障害者総合支援法により地域共生社会の実現に努めると共に、障害者の親亡き後も見据えた居住地支援や相談支援等、地域全体

で支える社会へと変容し、障害者自身の意思を尊重した支援が最重要視されるようになってきました。しかし、忘れられないのは、昨年に起きた相模原市「津久井やまゆり園」の痛ましい殺傷事件です。一人の突出した考えの行動と狂言が障害者の心情までも傷つけてしまいました。その後の行政の施策



を始め障害者の権利擁護の支点を踏まえた研修や
施策もあって、各施設の管理・運営も強化されるな
ど福祉環境も更に充実して参りました。

事業所あゆみにおきましても、今年は念願でもあ
った本施設横の橋本鉄筋跡地やビニールハウスの
ある農地を購入する事ができ充実した環境になっ
て参りました。今後利用者さんの幸せを願い、将
来が安心して生活のできる施設となるよう更に努
力したいと考えております。

『少しずつ微妙に』 多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛

実りの秋、紅葉の秋が又やってきました。面河溪
の紅葉は凄かった、大洲稲荷山はまだまだだったと
か、東予の西山興隆寺も良いらしいとか、毎年、毎
年耳寄り情報が飛び交う日々が繰り返されますが、
しかし又秋が来た、春が来たといっても全く同一の
繰返しではありません。

今年の秋は例年になく雨が多くて紅葉も遅かっ
たとか、今年の春は殊のほかブナの新緑が艶やかだ
ったとか、自然は少しずつですが、微妙に変化した
姿を見せます。

利用者の皆さんも毎日、毎日同じように元気で走
り回ったり、持ち前のフリースや振舞いを絶え間な
く繰り返す常同性はありますが、でもやはり季節の
移り変わりと同じく、少しずつ微妙に変化してい
るのです。成長と言っても良いかもしれませぬ。

今日も彼はこのパターンだったという日が続い
ていたのに、ある日突然これまで聞いたこともない



ヴォキャブラリーが当たり前のように口をついて
飛び出し、「えー君は誰だっけ?」と思わず口走り
たくなるようなこともあります。
それに、時間は止まることなく、後戻りもしません。
毎年一つずつ齢をとるといふ絶対的真理の前に、若
い若いといわれていた「多機能型事業所あゆみ」の
利用者も平均年齢が三〇歳になりました。皆変わっ
ていくのです。

そして、「少しずつ微妙に」変わっていくべきは私
たちスタッフの感性と知性かもしれませぬ。

『いんじりは』 児童発達支援センターあゆみ学園

児童発達支援管理責任者 今村 高博

昨年度、十三年ぶりにあゆみ学園の現場に戻って
きて、今年度はフリーの立場になりました。久しぶ
りの現場で「浦島太郎状態」でしたが、周りの職員
や保護者の方々、子どもたちにも教えられながらの
毎日です。

昨年とは違い、全クラスの子どもたちと関われる
ようになりました。園庭での自由遊びや給食の時間
行事の時など少しずつではありますが、色々な子ど
もたちと楽しく遊んでいます。子どもたちも、クラ
ス担任の時とはまた違った目で見えてくるよう
な感じがします。

今年はまだ四月当初よりマイククロバスやキャラ
バンの運転もさせてもらっています。運転席から毎
日登園してくる
子どもたちの顔
を見られるのが
楽しみです。
運転をしていて
特に印象に残っ
ているのが、新
入園の子もた
ちが初めてバス
で登園してきた
時の表情です。
不安いっぱい
の顔、お母さんと
離れてずっと泣
いている顔、バ
スに興味津々の
顔、



楽しそうな顔等々。でも今ではみんな元気に楽しく登園しています。そんな子どもたちの成長を見られるのが何より嬉しく思います。

新任職員コメント

保育士 小笠原 晴海

初めてのことはかりで毎日が勉強の日々です。これからも子どもたちと過ごす一日一日を大切に、頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

保育士 鈴木 結衣

あゆみへ来てから毎日が勉強の日々で、季節があとという間に過ぎていきました。子どもたちと皆さんの楽しいを共有できる毎日に日々精進していきたいと思っています。

保育士 西村 ほのか

まだまだ初めての事も多く分からないこともありますが、子どもたちと毎日楽しい時間をたくさん一緒に過ごしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

保育士 西刈 真凜

あゆみに来て半年が過ぎようとしています。新しい環境に戸惑うこともありましたが、子どもたちのパワーに負けないくらいの笑顔で頑張りたいと思います。

保育士 矢野 愛美

子どもたちとたくさん関わって行く中でお互いを知り、楽しい園生活を送れるように努めていきたいと思っています。これからますますお願ひします。

保育士 藤田 菜摘

子供達の笑顔に日々元気をもらっています。これからも子どもたちと共に成長できるように頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

『オッ、そんなことができるようになったんだ！』
児童発達支援事業とんぐり

児童発達支援管理責任者 中本 奈津子

「おはよう」毎日同じことばで一日がスタート。どんぐりの子どもたちは毎日日替わりで、利用人数は約五十名。月曜日は、火曜日は、水曜日は…と元気に登園してくる子どもたちを目の前に、「今日はどんな発見があるかな？」と考えながら受け入れれています。

この半年、子どもたちとかがかわる中で、いかに経験が大事か、積み重ねが大事か、という事を感じています。

幼稚園や保育園と併用している年長、年中、年少の子どもたちは「こっこあそび」が大好き！「○○こっこ」の○○に入るもの、電車・忍者・病院・温泉・散髪屋さん・レストラン・マクドナルド・写真



と発見がたくさんあります。

在宅の小さな子どもたちも利用開始の様子から考えると、お母さんと離れてたくましく過ごしています。生活面の力もついてきました。一緒に過ごしていると「よく見ていたんだなあ」と思ったり、「そんなこと思いついたん？！」と感じます。特に「ままことあそびをする」と、お母さんがしているのかな、と思うことがたくさんあります。

彼らの成長にはやはり家庭の力は大きいです。私たちはほんの少しお手伝い。環境の中で学んでいくことは、経験や体験をどの位しているかな、育ちはどうかな、と思います。かかわりなくさや育ちにくさを感じている保護者の方も多いと思いますが、子どもたちはしっかり見えています。見て学ぶこと、聞いて学ぶこと、感じて学ぶこと…『経験』は何かをさせることだけではなく、一緒に物を使って体験したり、場を共有したり、している様子を声かけなが

館・夜店・お店やさん等々…思いつくままに小物を準備しあそびを開始すると、子どもたちの表情はキラキラしてきます。発言も身振りもそれらしくなっていくところが可愛らしく、「オッ、そんなことができるんだ」



ら見せてあげたり、そんなことでも子どもたちの記憶に残っていきます。楽しい」と思うことは心に残りません。そして必ず「オッ、そんなことできるようになったんだ！」と発見します。どんな小さなことでも認めてあげたり、褒めてあげたり、声かけてあげたりすると、「嬉しい！」の気持ちを共有できますね。

これからも毎日の生活の中で、人とやりとりやことの広がりにつながるよう、子どもとの視線や仕草や反応にアンテナを張っていききたいと思っています。

『共感』

相談支援事業所へついで

相談支援専門員

岡本 愛

先日、義理の祖母が天国に召され、お見送りをしてきました。初めてお会いしたときはベッドでの生活で、体調も思わしくなかった状態でした。この人

はだれだろうと、じっと見つめられ…しばらくして、かすかな声で「かわいらしい」とじつじつと視線を合わせ、何度も繰り返し言うてくれました。この年で、嬉しいお言葉をいただきました。短い時間ではあったのですが、祖母には暖かな気持ちをもちることができました。

祖母との出来事のように、ことは少なくとも、心は通いあうものだと日々思っています。あゆみつ子と過ごす中でも実感させられる瞬間は多く、それぞれが、いろんな表現方法で思いを伝えてくれます。こちらがお子さんの気持ちを受信できた時、通じ合えたく、と、心の中でガッツポーズ、です。相談支援専門員になり、保護者の方とお話する機会も増えたのですが、まだまだ力不足を感じる毎日です。少しでも保護者の方の心の声に寄り添っていけるよう、心の中でガッツポーズができるよう、今後も日々精進していききたいと思っています。

『初めてのお芋ほり体験』

小規模保育事業所ひかり

主任保育士

四元 晶子

平成二十八年度からスタートした小規模ひかりも無事に二年目を迎えることが出来ました。現在は一歳から三歳の子どもたちが十一名、新しい職員も仲間入りして毎日にぎやかに過ごしています。先日はひかり保育所の子どもたちが、多機能型事業所あゆみでお芋ほりをさせていただきましたが、帰ってからお土産のお芋を砂場に埋めて、小さい人たちもお芋ほりごっこを楽しみました。初めての子どもたち

が多く、土のついたお芋を触ることも怖がっていました。だんだん慣れてきてしっかりと手にして持って帰りました。貴重な経験をありがとうございました。貴重な経験をありがとうございました。貴重な経験をありがとうございました。



『災害時に備えて』

多機能型事業所あゆみ

生活介護事業

生活支援員 杉野 啓太

当事業所では、月に一度避難訓練を行っております。訓練実施当初、館内放送を聞いて「何が始まったんだろう?」と不安で顔がこわばっていたりする方や、一切動じることなくその場で普段の作業に集中されている方もおられたことを思い出しています。当時の限られた現場のスタッフでスムーズに利用者の方の皆さんを避難誘導できるのかと、不安もいっぱいでありましたが、現在は支援員の声かけ誘導に従ってスムーズに避難場所への移動が行えています。

災害の中でも特に地震に関しては危機管理が重要であると考えているところであり、他施設とも連携して安全確保の方法などについて情報の共有に努めています。地震が起こった場合の安全行動として知られているのは「DROPP-KOVERT-HOLDON」これは日本語にするところ「まず低く、頭を守り、動かない」といった意味です。机の下に潜り込む動作が一般的なのは皆さんご存知かと思いますが、これは頭を守ることの重要性からきているものであり、なんらかの形で頭を守っていた場合の生還率が非常に高いことを表しています。実際に地震が起きた場合に、とっさに自分の手を使って頭を守るなどの行動が危険から身を守ることに直結しているのだそうです。普段慣れ親しんだ場所での災害となると、精神的に興奮状態になったり、冷静な行動をとることが困難であると予想され、スタッフは身の回りにあるもので利用者様の頭を守ったりあるいはさっと手を差し伸べることで頭を守るなどの行動が必要になってくるのかもしれない。そのような事態を想定し、普段利用者様の状況や特性について職員間でこまめに話し合い普段の訓練に臨んでいるところでもあります。

最近では携帯やパソコンなどのインターネット情報もますます速度が上がってきており、事前に避難体制を整えるため参考にする施設も増えてきているようです。近隣施設との情報の共有とインターネット情報に関しても敏感に反応し、事業所の災害対策計画にいかしていきます。

幸いにもこれまでに当事業所で地震や火災などによる災害事故は起きていませんが、今後百万が一



に備えて職員研修や勉強会などに参加していくことで意識を高くたもっていきたいと考えております。

利用者様の命を預かっていることの重大さをしっかりと話し合っています。

『ジャム造りに携わって』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

生活支援員 魚見 恵子

就労継続支援B型事業所は、現在十六名の方々に利用いただいております。作業内容は農作業、清掃作業、軽作業、ジャム製造を行い、工賃向上に向けて努力しています。なかでも農業は、本施設の中心的な作業内容となっております。この地域は昔から美味しいいちじくが収穫されており、多くの方が栽培に携わられております。本施設のいちじく畑には、大きな十数本の古木があり、毎年多くの美味しいいちじくが収穫されて人気の的となっております。



た、二棟のビニールハウスには新鮮でみずみずしい苺やトマトが栽培され、これらの果実販売とこれらを材料としたジャムの製造・販売を行っています。私事ではありますが、ジャムの製造に携わるようになり3年が経ちました。初めのうちは味を一定にすることが難しく、糖度は同じなのに味が違ったり、鍋の底が焦げてしまったりすることもありました。何度も繰り返し造るうちに火力や煮詰める時間などの加減が分かるようになり、安定した味のジャム製造ができるようになってきました。また、より良い製品をお客様にお届けできるように愛媛県産業技術研究所において要点をご指導いただき、製造工程や味、品質、表示、衛生面について改良を行いました。研究員さんからはジャムの原材料をこの施設で栽培し、それを利用してジャム製造にいたる工場は少なく本施設の強みであることや収穫した材料をふんだんに使っていることから商品価値は十分にあげることなどご指摘いただき心新たにしたいところです。

シヤム販売におきましては、地域や保護者の方々を始め団体が行うバザー、松山西ライオンスクラブ様の行事や結婚式の引き出物等多方面から注文やご協力をいただきました。また、先日は保護者からのお誘いもあって、愛媛大学教育学部付属特別支援学校の文化祭へ初めて参加し、たくさんのシヤムを販売させていただきました。販売をする中で、「僕、いちじくシヤム好きなんよ。いちじくへ、いちじく。」と笑顔で言ってくれた男の子がいました。喜ぶ人の顔を見ることがよって自分も喜びとやりがいを感じています。これからも利用者さんが造ること売ることを楽しみに取り組めるよう、努力していきたく思います。

父母の会 役員紹介



武智 知沙
今年度、会長をさせていただいています。最後まで、精一杯努めさせて頂きます。よろしく願い致します。

阿部 薫
今年度、副会長を務めさせて頂いています。子供達より良い園生活を送れる様、最後まで頑張ります。宜しくお願い致します。

中川 香織
今年度、副会長を務めさせて頂いています。任期も残りわずかとなりましたが子ども達や親御さん方が楽しく過ごせるよう最後まで精一杯頑張りたく思います。よろしくお願い致します。

庄本 ひつみ
今年度の会計を務めさせて頂いています。初めての役員で至らぬところも多々あると思いますが、皆様のご協力を頂きながら精一杯努めていきますので宜しくお願い致します。

井川 美晴
今年度、書記をさせて頂いております。子供達の楽しい園生活のお手伝いができたらと思います。よろしく願い致します。

家族会 役員紹介

藤崎 貞親
初めて、会長をさせて頂いております。学園、作業所には我が子がお世話になっており作業所には役員として、お役に立ちたいと思っています。宜しくお願い致します。

久保 昌子
今年度も微力ながら子供たちのためにお手伝いできればと思っています。よろしく願い致します。

谷本 加代
家族会の活動を通じて、支援員さんや他の利用者さんと会う機会が増え、我が子の様子もわかりました。任期もあと少しですが、三月の収穫祭に向け事業所と協力してがんばりたいと思います。よろしくお願い致します。

相原 菊見
今年一年、役員として皆様のご協力をいただきながら、頑張っていきたいと思えます。よろしく願い致します。

江戸 美千代
初めての役員で不安もありますが、また新しい出会いに感謝しています。皆様のご協力をいただきながら、少しでもお手伝いが出来ればと思います。よろしく願い致します。



新任職員

保育士 小笠原 晴海
鈴木 結衣
西村 ほのか
西淵 真凜
矢野 愛美
藤田 菜摘

(平成二十九年四月現在)

お知らせ
平成二十八年度の苦情受付に関して受付件数は2件でした。(解決済み)

発行

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号
社会福祉法人あゆみ学園
ayumi-g@bz01.plala.or.jp
Tel 089-972-0999 Fax 089-972-3511
HP: http://business4.plala.or.jp/ayumi-ga/

児童発達支援センター あゆみ学園
児童発達支援事業どんぐり
相談支援事業所くじら
Tel・Fax・mail とも法人に同じ

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号
多機能型事業所あゆみ
生活介護事業所あゆみ
就労継続支援B型事業所あゆみ
あゆみ学園指定相談支援事業所
ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp
Tel 089-974-5141 Fax 089-907-6100